

〈資料 1〉

平成30年度

第2回宇治市小中一貫教育推進協議会 資料

平成31年3月8日（金曜日） 18時00分～
宇治市役所 602会議室

目次

1	平成30年度宇治市小中一貫教育中学校ブロック活動状況	…	2
2	平成30年度中学校ブロック年度総括表		
	・宇治中学校ブロック	…	4
	・北宇治中学校ブロック	…	5
	・槇島中学校ブロック	…	6
	・西小倉中学校ブロック	…	7
	・西宇治中学校ブロック	…	8
	・南宇治中学校ブロック	…	9
	・広野中学校ブロック	…	10
	・東宇治中学校ブロック	…	11
	・木幡中学校ブロック	…	12
	・黄檗中学校ブロック	…	13
3	平成30年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動報告	…	14
4	平成30年度宇治市小中一貫教育に係る視察受入状況	…	15

ブロック小中一貫教育目標

ふるさと宇治を愛し、みらいを展望し、たくましく生きる児童生徒の育成

めざすこども像

- ア ともに学び、考える児童生徒
- イ たくましく生きる児童生徒
- ウ 笑顔を大切にする児童生徒

今年度の取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
授業づくり、宇治学、人権・道徳の3つの専門部会において、公開授業研究会（事前研⇒公開授業⇒事後研）を実施した。また、授業づくり部会においては、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を小・中学校協働で進めることができた。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
これまで行っている交流の取組（クラブフェスティバル、駅伝合同練習、鼓隊クラブ・吹奏楽部合同練習）の内容を精査し、より効果的な方法を検討し、実施した。
- (3) 家庭・地域社会との連携
小中一貫 教育校だより（FUTT）や学校だより等を積極的に活用しながら小中一貫の取組を紹介した。また、中学校教員が小学校に出向き、6年生保護者に対して「中学校準備講座」を開催したり、6年生児童に対して、中学校の「定期テスト」に対してどのように学習すればよいか話を聞いたりする機会を設けた。
中学校の学校だよりを6年生全員に配付し、中学校の様子をよく知ってもらおうとともに、各小学校の学校だよりを中学校の掲示板に掲示した。
- (4) 中学校ブロック推進体制の充実
ブロック校長会の指導のもと、ブロック教頭会と各校コーディネーターを要とした推進体制の充実を図った。ブロック教頭会、各校コーディネーターで取組の方向性について検討し、ブロック校長会の指示のもと、具体的な取組を各専門部で推進した。

今年度の成果と課題**(成果)**

- ・授業づくり、宇治学、人権・道徳の3つの専門部会において、公開授業研究会を実施することができた。
- ・課題であった公開授業への専門部員の参加については、今年度多くの部員が参加することができた。
- ・授業づくり部会では、中学校の授業を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善について、効果的な話し合いや授業の手法について小中教員が学び合うことができた。
- ・小学6年生に対して中学校教員より「中学校でのテスト」に対しての話を聞く機会を設けることができた。

(課題)

- ・児童生徒の更なる学力向上や人権意識の向上に向けて、組織の見直しを図り、組織の再編を行う必要がある。
- ・ホームページを活用して、保護者・地域への啓発・発信を進めていく必要がある。

来年度に向けて

- ・児童生徒の更なる学力向上や人権意識の向上に向けて、研究授業等を通して、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について小学校中学校の教師がもっと議論をすることができ組織の再編を図っていく。

ブロック小中一貫教育目標

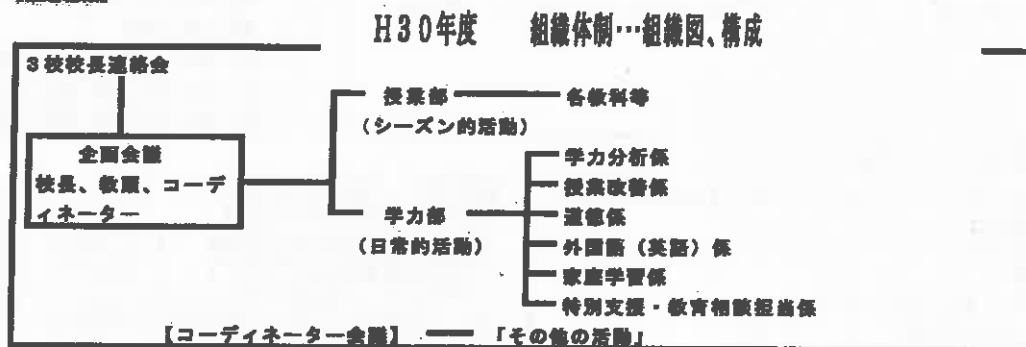
「学力の向上を目指し、多角的に小中の連携を進める」

めざす子ども像

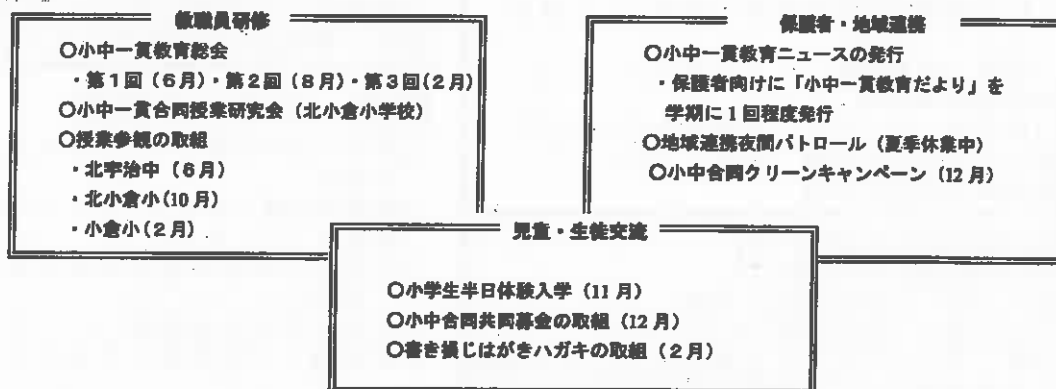
・自ら考え、自覚的に表現できる子(知) ・人と地域のつながりの中で豊かな心を育て、他を大切にする子(徳) ・運動に親しむことにより、楽しく生活できる子(体)

今年度の取組

【推進組織】



【取組の概要】



今年度の成果と課題

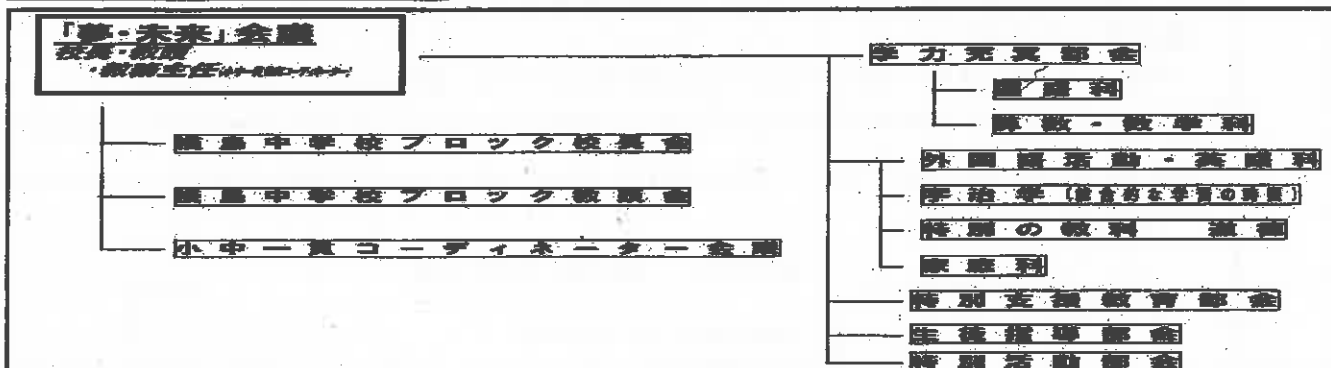
- ・本年度も合同授業研を開催し、効果的で効率的な指導方法の交流を図ることができた。
- ・新たに「道徳係会」「外国語(英語)教育推進係会」を加え、学力面を中心に継続的に小中一貫教育の推進を図れた。
- ・学力面を中心に小学校と中学校の連携を一層深め、具体的な学力向上の成果を出していく必要がある。
- ・保護者や地域に、小中一貫教育の取組を周知し、さらに理解を図る必要がある。

来年度に向けて

- ・系統的、継続的取組を通して、学力面を中心に小中一貫教育をさらに推進する。
- ・多様な観点から学力の伸長を目に見える形での数値化を図っていく。
- ・中一ギャップの解消を図れる取組をさらに進めて行く。
- ・ブロック内での連携を深め、「道徳」「外国語(英語)教育」の円滑な実施に向け研究を進める。

横島中学校ブロック 小中一貫教育目標・めざす子ども像
豊かな人間性と未来を創造する子どもの育成
 ○心身共に健康で、明るく活動する子
 ○意欲的に学び、深く考え、豊かに表現する子
 ○地域でつながり、共に支え合い、高め合う子

今年度の推進組織



今年度の取組

教職員研修

- 合同研修会
 - ・中学校授業参観と全体会、教科・領域部会(6/14)
 - ・学力実態・分析交流、講演会、教科・領域部会、学年会(8/20)
 - ・府小研家庭科研究大会(横島小)へ参加(11/20)
 - ・教科・領域部会(11/26)
- 小学校授業参観(横島小:5/24、北横島小6/21)
- 学力充実部会の開催(5月、7月)
- 教職員広報誌の発行

学力充実を自指して

- 学力実態・分析の実施と交流
- 分析に基づく授業改善にむけた検討
- 中学1年ふりस्ताへの小学校教員による支援
- 「家庭学習ナビゲーション」の配付

小中一貫教育推進に関わって

- 「夢・未来」会議を推進の要とした組織体制の中で、小中一貫教育の取組や各部の研究実践を推進する。
- 横島中学校ブロック校長会、教頭会、コーディネーター会議を定期的実施する。
- 学力充実部会を合同部会とは別日に設定し、学力分析と課題解決に向けての方策の検討、家庭学習の手引きの検討を行い、国語や算数・数学科部会にて具現化する体制を確立する。

成果と課題

- ◇各校コーディネーターが連携し、連絡・調整・共通理解を進め、取組を計画的に実施することができた。また、ブロック校長会、ブロック教頭会の推進を図ることができた。
- ◇教職員研修では、中学校ブロックの学力分析を行い、基礎学力のさらなる定着のための取組、家庭学習の推進など、学力充実に向けた児童生徒の課題に迫る研究を推進し、実践・検証することができた。
- ◆学力向上に向けた授業改善の視点を整理し、日々の実践につながるよう、連携をさらに深めていく必要がある。
- ◆家庭学習のあり方を再検討し、実態に合わせながら学力充実のため改善していく必要がある。

次年度に向けて

- これまでの成果と課題を踏まえながら、学力向上を柱とした研究推進体制を確立し、実践については年間計画の中にPDCAサイクルを位置づけ工夫・改善していく。
- 「主体的・対話的で深い学び」を充実させるために小小連携・小中連携の中で、統一的・系統的な指導のあり方、生徒指導の3機能を生かした授業のあり方を追究し、児童生徒の生きて働く力と自尊感情の育成につなげる。

ブロック小中一貫教育目標

小中9年間を通して 地域と共に 子ども達の 豊かな心と 確かな学力を育む

めざす子ども像

- ・自分の考えを 豊かな表現力で伝え合う子
- ・地域とつながり 思いやりの心を大切にする子
- ・健康に気を付け 自らの目標に向かってがんばる子

今年度の取組

(1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実

- ・宇治スタンダードの充実や、「やましろ授業スタンダード」の活用を図る。特に小学校高学年においては、中学校への接続を意識し、中学校においては小学校との接続を意識した授業改善を進める。今年度は「基礎・基本を大切にしながら対話的な学びに繋げていくためには」について重点を置き、夏季合同研修会や合同授業研究会において研究を深めていく。
- ・中学校のテストへの不安軽減を図るため、両小学校6年生が、中学校のテストの形式に合わせたテストを実施する。

(2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開

- ・年間2回の研修会、合同授業研究会(1回)、フリー参観(1回)を行い、授業改善・授業システムの共有化を図り、自主学習の取組等による家庭学習の充実に取り組む。
- ・自主学習ノートの活用により、児童の学習意欲を高め、学力の向上につなげる。
- ・小小連携加配による、両小学校での音楽の授業を通して課題を発見し、改善する。
- ・「学力充実・向上部」「生徒指導部」「児童生徒交流部」の3部で、児童生徒の実態を交流し、課題の解決に向けた取組を進める。各部会で小中一貫の視点で取り組む内容を具体化していく。

(3) 家庭・地域社会との連携

- ・家庭学習の充実に繋がる意識アンケートを必要に応じて実施する。
- ・様々な取組を「一貫教育だより」や「学校だより」、HP等で発信する。
- ・各校の「一貫教育コーナー」(掲示板)を充実させる。

(4) 中学校ブロック推進体制の充実

- ・月1回程度のコーディネーター会議で合同研究会の計画や各部の活動状況を把握する。
- ・月1回の推進会議を持ち、コーディネーター会議の内容を確認し、協議する。
- ・教頭会を推進組織に位置づけ、教頭とコーディネーターがリーダーとなる推進体制を構築する。
- ・各校校長、教頭がそれぞれ「学力充実・向上部」「生徒指導部」「児童生徒交流部」の担当に入り、部の責任者(コーディネーター)と相談しながら取組を進めていく。

今年度の成果と課題

(成果)

- ・夏季合同研修会では、中学校の進路について研修をし、最終の進路保障に向けて基礎学力の徹底と確認が大切であることは確認できた。
- ・ブロックを3つの部会に分けて、研究協議をし、小中の教員のそれぞれの悩みや、児童・生徒との関わりの中での視点を交流することができた。
- ・体験入学での小小連携交流会でお互いの学校について知る機会とすることができた。

(課題)

- ・自主学習ノートは定着してきたが、スタンプの活用は小学校では自主学習に、中学校では宿題の点検に活用するにとどまった。
- ・コーディネーターを中心として、小中共通の取組について具体的な計画の立案・実施を推進できなかった。
- ・地域学校の中止によって、交流の場が限られた。

来年度に向けて

- ・新しい取組を始めるのではなく、現在各校で実施している取組を実施時期を同じにするなどの工夫を行う。
- ・9年間という校種を超えて児童生徒の成長を見守っていくために、小中教員間の連携を強化していく。
- ・学力充実・向上の重点研究のテーマ設定は各学校の研究の内容を生かしつつ、当年度の研究授業校の重点研究テーマを柱に研修を進める。
- ・他地域の効果的な小中一貫の取組を参考にしつつ、社会的な視点として小中連携の意味を学び合う必要がある。

ブロック小中一貫教育目標

N・I・S目標

「自立への学びと社会性の育成を推進し心豊かでたくましい人間を育てる」

めざす子ども像

- 知「展開する力」：・深く考え、よく聴き、意欲的に表明する子。
- 徳「つながる力」：・温かい心で助け合う子 ・節度をもった礼儀ある子。
・違いを認め合える子。
- 体「挑戦する力」：・ねばり強く諦めない子。 ・基本的生活習慣や健康を配慮できる子。

今年度の取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・ 10月に第3回西宇治中学校ブロック小中一貫教育合同研修会の公開授業（会場：伊勢田小学校）を開催し、3校協働で指導案作成及び指導方法等の研究・研修を実践した。また、その準備として、6・8月の2回にわたって3校合同の研修会を持った。
 - ・ 小中学校9年間に及ぶ児童生徒の教育活動に見通しを持った学習指導の方法を研修するとともに、その成果を共有し協働に活かすことができるよう、資料・データの整理（＝「見える化」）に努めた。
 - ・ 「宇治学」に関しては、副読本の活用について持続的・継続的、さらに現実的な計画を立てられるよう取り組んだ。
 - ・ 今年度の始めに備えて従前の「学習の手引き」に改訂を施し、小中学校ともに各学年における最初の授業や適切な機会を捉えた「学習の手引き」活用に取り組んだ。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・ 中2「職場体験学習」の場を小学校に設定する取組（5月30・31日 6月1日）や、小学校児童への中学生の「部活動を生かした交流」（駅伝合同練習など）実施等々、相互の理解と交流を深める取組を積極的に実践した。
 - ・ 小6「中学校体験入学」（11月7日）、「『中学校の学習』説明会」（3学期）を実施するなど、児童の小中格差に関わる不安を取り払い、スムーズに中学校生活へ移行できるよう支援した。「春休みの宿題」の内容についても検討し改善を加えた。
 - ・ 毎学期、小中学校共同で「朝のあいさつ運動」に取り組み、児童会・生徒会相互の交流を深めた。
 - ・ 各取組の担当者与实践についての打ち合わせを丁寧に行い、慣例となっていた行事や取組についても「組織としての運営」を維持していけるよう整理した。
- (3) 家庭・地域社会との連携
 - ・ 広報紙発行（教職員配付用、小中学校保護者及び地域配布用）の取組を継続するとともに、小中一貫教育啓発掲示板の有効活用、各校学校だより（小5・小6・中1対象分）のブロック内交流、各校HP上の工夫等々を実現し、広く地域に発信し理解と支援を求めた。
 - ・ 各地域行事（夏祭りや左義長など）、夏休みの「地域パトロール」、西宇治オープンフェスタ、中学校オープンスクール等々への積極的な参加を通して、地域との連携を図り支援や協働を得た。
- (4) 中学校ブロック推進体制の充実
 - ・ ブロック校長会をはじめ各会議を適宜開催し内容の充実を図るとともに、推進計画が円滑に遂行されるよう、各会及び各部との交流、連携に努めた。
（特に、実務に直結するコーディネーター会議は月例開催を定例化し、全体の調整と活性化に努めた。）
 - ・ 小中連携の諸行事における準備の手順や役割担当等を明確にし、協働体制を構築した。

今年度の成果と課題

成果

- 3校交流の意義がより浸透し、各部・全体とも年度当初の協働計画を積極的に進めることができた。
- 行事や取組について、個々の運営体制を見直し実践面の整理を進めることで、持続可能な取組体制を整え、協働への理解を得ることができた。

課題

- 小中の共有や協働が進んだことで、「学力充実」を中心とする「9年間を通して向き合うべき課題」が各部ごとにも見えてきた。対策には、見通しを持った綿密な計画が必要であると考えられる。

来年度に向けて

- ・ 「効果のある宇治市方式を進めるアクションプラン『ファースト・ステージ』」の趣旨に沿い、ラーニングコーディネーターを中心に、西宇治中ブロックとして地域ぐるみで協働を推進する。
- ・ これまで地域として大切にしてきた行事や、成果が確認できた取組等については、さらに小中合同で研究・研修に取り組み、運営体制・内容ともに発展的な継続ができるよう努める。
- ・ 学校教育を取り巻くあらゆる変化や多様性に対し、地域全体で柔軟且つ適切に対応できるよう、小中間で積極的に交流し合い情報の共有や協働を推進する。

ブロック小中一貫教育目標

めざすこども像

夢や希望を持ち、未来をたくましく生きぬく児童生徒の育成

今年度の重点

組織・体制を見直し、具体的な学力向上の取組を検討する

児童生徒の交流が、より実りあるものにするために、主体的な活動にしてい

今年度の取組

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・学力充実部が行う学力分析の結果から、具体的な改善目標を精選し、設定した目標に向けての取組を検討する。
 - ・授業を公開し、事前研・事後研を含む授業研究を行い、小中で取り組める授業改善の方向性を探る。
 - ・授業規律の共有と家庭学習の取組（家庭学習の手引きの作成など）を進める。
 - ・各校の状況を踏まえ、学校生活のきまりや、よりよい姿を小中で共有する。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ・両小学校で帰国外国人児童生徒理解学習を実施し、中国武術体験などを通して三校共通のグローバルな感覚を養う。
 - ・児童会生徒会合同会議を実施し、小中合同地域清掃ボランティア活動や、児童会生徒会合同あいさつ運動を児童生徒の主体的な取組にする。
 - ・小学6年生の授業体験・部活動体験や、中学生による小学生の部活指導支援を通して児童生徒の交流を図る。
- (3) 家庭・地域社会との連携
 - ・「小中一貫教育だより」を校区の保護者対象に発行する。
 - ・「家庭学習の手引き」の配布を通して、家庭学習の大切さを知らせ保護者と一体になって家庭学習推進の取組を進める。
 - ・地域に学校だよりを配布し、学校の実践を紹介すると共に、地域の課題を共有する。
- (4) 中学校ブロック推進体制の充実
 - ・ブロック校長会をふまえ、コーディネーター会議及び推進委員会を計画的に実施する。
 - ・ブロック校長会の指導に基づき推進計画を立案し、改善充実させる。
 - ・コーディネーター会議及び推進委員会等において教科連携加配教員を効果的に活用すよう検討する。
 - ・ラーニングコーディネーターが定期的に学校訪問を行う。

今年度の成果と課題

- ・3校合同研修会や各部会での検討の結果、児童生徒の実態、児童生徒に付けさせたい力、南宇治ブロックの学力向上の取組の方向性について、教職員の共通理解が図れてきている。さらに、授業の手立ての工夫などを共有し、小中の一貫した指導・支援を行い学力向上につなげる。
- ・授業・部活動体験や合同の取組を実施する中で、児童から中学校生活への不安が解消したという声を聞いたので、さらに取組や交流が主体的で日常的なものになっていくよう内容を検討していく。
- ・児童生徒の健康状況や生活習慣についても交流し課題が共有できたので、『小中合同ほけんだより』を家庭、地域へ発信できた。
- ・学力の向上の取組を具体的に進めるため組織を見直した。その中で「家庭学習の手引き」を作成できた。

来年度に向けて

- ・学力向上に向けた新組織が活動しやすい体制をつくり、授業の手立ての工夫や、家庭学習の取組（「家庭学習の手引き」の見直しなど）、保護者への様々な支援の検討を進め、家庭、地域と協力しながら学力向上を図る。
- ・児童・生徒の交流が実りあるものとなるよう、主体的で日常的な活動にしてい



宇治ひろの学園 (広野中学校ブロック)

広野中学校
大久保小学校
大開小学校

宇治ひろの学園 教育目標 : 夢や希望をもって未来を切り拓ける児童生徒の育成

推進組織

学校運営部会
(3 校長)



事務局部会
(コーディネーター部会)



学力部会

児童生徒理解部会

児童生徒交流部会

その他の部会

小小学年部会

30年度の取組

★児童生徒が交流する取組

- ・HOT-MEETING (3 校合同児童生徒会) の実施
- ・福島ひまわり里親プロジェクト参加活動の充実
- ・HOT-STUDY (中学校 新入生半日入学)
- ・クラブアシスタントティーチャー (中学生の小学校クラブへの参加)
- ・中学生による小学生への紙芝居の読み聞かせ 他

★学力充実の取組

- ・板書カード・授業システム・家庭学習の手引き
- ・全国学力・学習状況調査、府学力診断テスト、CRT テストの結果分析と課題の共通理解
- ・小学校高学年での「教科担当制」
- ・中学校定期テストへの不安軽減の取組
- ・宇治ひろの学園共通問題 (算数) の実施 他

★教職員が交流・共同研究する取組

- ・宇治ひろの学園研究会の開催
(5 月総会、8 月夏季合同研究会)
- ・2 小学校教員による小小交流の充実
- ・各校授業研究会への参加
- ・小学校教員による中学校の部活動見学
- ・中学校教員による小学校体験研修の実施 他

★保護者・地域と交流する取組

- ・広野中学校吹奏楽部定期演奏会 in 大久保小学校
「オータムメモリーコンサート」の開催
- ・3 校合同地域懇談会の開催
- ・子どもの主張大会 (大久保学区青少協主催) 他

平成30年度の成果

- ・学力調査における質問紙項目まで踏み込んだ3校合同の学力分析を実施。学園の学力実態とともに各校の実態も把握し、課題に応じた手立てを実施することができた
- ・児童会、生徒会を中心に、これまでの取組の目的や意義を再確認し、新規事業を立案・実施するなど児童生徒が主体的に活動を実施することができた。
- ・広野中学校生徒や教員と小学生が具体的な中学校の生活や学習の仕方について話し、感じたことを小学校生活に生かす活動を通して、中学校に向けての不安を軽減することができた。
- ・3校合同での地域懇談会を開催するなど、学校、家庭、地域で連携・協力しながら小中一貫教育を進めることができた。
- ・HOOP (宇治ひろの学園小中一貫だより) を作成して家庭や地域に配付し、小中一貫教育について積極的に情報発信することができた。

平成31年度に向けて (課題)

- ・宇治ひろの学園全体の学力向上を目指し、児童生徒の学びの実態について、さらに正確な調査分析と実態把握を行い、効果の出る具体的なアプローチを実践していく必要がある。
- ・小小連携を更に充実させて有効活用し、無理なく効果的な小中一貫教育の取組を進めていく。
- ・家庭、地域に対して「目に見える取組」をさらに展開していく。

小中一貫教育の活動総括図

教育目標

「命をかがやかす人間」

めざす児童・生徒像

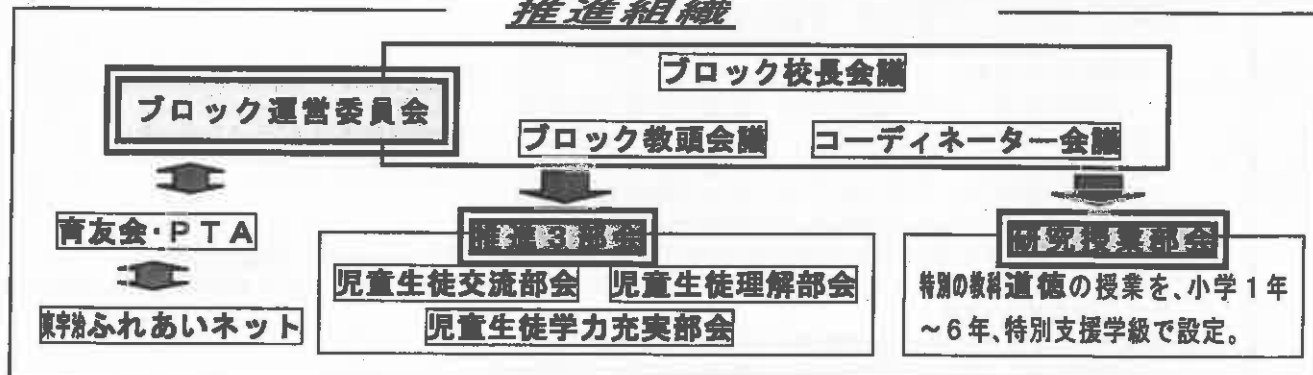
「自ら学び学習する児童・生徒」

「思いやりのある児童・生徒」

「たくましく生きる児童・生徒」

「健康や安全を考える児童・生徒」

推進組織



取組の実際

教職員研修

- 小中合同研修会(5/28・8/23・11/15)
- 小中合同研究授業(11/15 会場:南部小)
- 相互授業参観
 - ・小学校から中学校授業参観(5/28)
 - ・中学校から小学校授業参観(6/1)
- 教職員広報の発行
- 4校学校便りを教職員へ配布
- 3小合同研修会+合同学年会(8/23)
- 中学1年ふりスタへの小学校教員支援
- 東宇治中ブロック児童生徒の学力分析

児童・生徒交流

- 小学6年生の中学校体験入学(11/7)
- 中学2年生の小学校での職場体験(5/24・25)
- 中学生の美術作品巡回展示(2学期)
- 花植ボランティアによるプランター贈呈
- 地域行事での交流

家庭・地域との連携

- 小中一貫教育便りの発行
- 「家庭学習の手引き」(保存版)の配布
- PTA・育友会 保護者合同研修会(11/13)
- 小中一貫教育コーナー(掲示板)の設置
- 小中一貫教育リーフレットの配布(小学1年生・転入生)
- 「おおばくまつり」(東宇治ふれあいネット)

小中スムーズな接続のために

- スクールライフサポートブック配布(小学6年)
- 先スタ(中学入学前の学習)の配布(小学6年)
- 小学6年生の中学校体験入学(11/7)
- 小中連携教員による外国語活動指導(小学6年)
- 東宇治中入学保護者説明会(11/30)
- 小中連絡会(5/14・12月・2月)
- 中学学校便りを小学6年生に配布
- 授業スタンダードの積極的活用
- 定期テスト対策(小学6年)
- 「宇治学」カリキュラムの検討

学力の充実・向上

児童生徒に「主体的・協働的に学ぶ力」を高め、「ことばの力」や生きて働く学力、生きる力を身に付けるために

- 授業充実のための相互授業参観・合同研究授業・授業スタンダードの活用
- 中1京都府学力診断テストを中心とした学力分析を小・中学校の授業改善に活用
- ふりスタ・先スタ・定期テスト対策(小6)による小中の接続強化
- 家庭学習の手引き・スクールライフサポートブックによる家庭学習習慣・生活習慣の確立

成果と課題

- 本ブロック児童・生徒の実態を踏まえ、授業や指導を通じた小中合同の研究・取組を進めることができた。
- 様々な形式での児童・生徒交流や地域・家庭連携のための情報発信・取組を積極的に進めることができた。
- ブロック校長会議・ブロック教頭会議のリーダーシップのもと、コーディネーター会議で調整を図りながら、様々な取組を推進することができた。
- 児童・生徒の学力課題や生活課題を一層明確にし、小中一貫教育の視点で、課題解決に向けた取組を進める必要がある。

平成31年度に向けて

- これまでの成果と課題を踏まえた取組を推進しながら、「義務教育9年間の系統的・統一的な指導で確かな学力と生きる力を身に付ける」という視点で、取組の点検・評価・改善を進め、本ブロック小中一貫教育の一層の推進を図る。
- 新しい教育の方向性(新学習指導要領)を見据えながら、小小連携・小中連携の中で、系統的・統一的な指導の在り方を追求し、児童生徒の生きて働く学力・生きる力の育成につなげる。

ブロック小中一貫教育目標**めざす子ども像 故郷（ふるさと）で夢や希望をはぐくみ、未来を切り拓く児童・生徒****今年度の取組**

- (1) 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - ・ 中学入学時の不安軽減へ向けての様々な取組を行う。
 - ・ 中学校英語教員による全小学校での授業（通年、毎週）を実施する。
 - ・ へき地校を含んだ小小連携授業・交流学习を実施する。
 - ・ 合同研修会を通して小中教員が連携し、児童理解につながる研究授業を行う。（11月14日）
 - ・ 小中が継続的に一貫した目標で取り組むことで小中のなめらかな接続を図る。
 - ・ 合同研修会を通して学力向上のための授業改善を図る。
- (2) 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - ① 中学校ブロック小中一貫教育推進組織体制や計画・取組についての点検・評価の実施
 - ・ 部会ごとのアンケートをもとに推進委員会の中で総括する。その中で、成果や課題を明らかにし次年度に有効な方向を探る。
 - ② 中学校ブロックにおける教職員の研究・研修の充実
 - ・ 全教職員が、教科領域部会または教科外部会に所属する。
 - ・ 各校の学校行事の計画段階で小中一貫教育を意識した取組を計画的、有効的に組み込む。
 - ・ 研究の具体的な方向性を掲げる。
 - ・ どの教科にも通じる「学び合い」「ことばの力」を大切にした授業にしていける。
 - ・ 研究授業に向けて取り組む中で、小中の学習指導の流れをお互いが認識し、系統的・継続的な指導を行う。
 - ・ 年間3回の小中教員の合同研修会（6月13日、8月22日、11月14日）を柱にする。その中で各部長を中心とした教科領域部会を持ち、少ない機会であっても有効に活用する。
 - ・ 8月22日の研修会では、全体会で各学校の重点研究を発表し合い、小中での教育活動の連携を図る。
- (3) 家庭・地域社会との連携
 - ・ 通信、たよりなどの配布は、ほぼ予定通り行ない、学校と地域、家庭との情報共有に役立った。
 - ・ 各小学校の学校だよりを掲示することができ、中学生にとっても良い刺激となった。
- (4) 中学校ブロック推進体制の工夫や充実

ブロック校長会と小中一貫教育推進委員会を常にリンクさせ、計画的に取組を推進する。
8教科領域部会および4教科外連絡会の定例化を図り特色のある取組を推進する。

H30 年度の成果と課題**成果：**

- ・ ブロック校長会の指導のもと、推進委員会で意見交流しながら児童・生徒交流や教員交流が深められた。
- ・ 小小連携や小中連携の各種取組は、しっかりとブロック内に定着し滑らかな小中接続に貢献している。
- ・ 「学び合い」を大切にした授業を研究授業に向けて担当教員を中心に準備をすることができ、授業の内容についても研修会の中で話し合うことができた。
- ・ 「生徒指導」・「教育相談」・「特別支援」の3つの連絡会と一つの「児童生徒理解連絡会」にすることで、3つの方向から児童生徒の交流をすることができた。
- ・ 「やましろ授業スタンダード」を活用して、研究授業を行うことができ、事後研でも深い学びに向けて話をすることができた。
- ・ 第2回小中合同研修会では、「話し合い活動の充実のための取組方法」「家庭学習」についてグループで意見交流をすることができ、小中間での共通点や相違点を見つけることができた。

課題：

- ・ 教師間での話し合い活動の機会を増やすことができ、小中間での様々な気づきを発見することができたが、その発見を活用するところまで至らなかった。
- ・ 研究授業では一定の成果を上げることができ、ブロック内での話し合い活動を取り入れた授業がスタンダードとなってきたが、深い学びにつなげる授業までに至っていない。話し合いの内容をまとめ・発展させるという視点を持った授業改善を教師間での話し合いが必要である。

来年度に向けて

- ・ ブロックの取組として年間を通して「学び合い」「ことばの力」を大切にした授業を行う。そのために、合同研修会の中で「主体的・対話的で深い学びのある授業」についての実践方法を研修会内で共有する。
- ・ 「主体的対話的で深い学び」の実現を目指す授業を実施するために「やましろ授業スタンダード」を活用した研究授業を目指し、事前研と事後研を通して共通課題を持って意見交流を行う。
- ・ 教科領域部会を教科部会とし、「道徳科」を入れた8教科で授業研究を行う。
- ・ 家庭学習の手引きをブロックの小学校、中学校で配布する。
- ・ 組織を再編成する。

ブロック小中一貫教育目標

- めざす子ども像** ・ 高い志を持って、学びの道を究める人（質の高い学力）
 ・ さわやかな心、優しい心を持った人（豊かな人間性・社会性）
 ・ 強い意志を持って、人生を切り拓く人（意欲や情熱、健康な体）

今年度の取組

- 1 系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実
 - (1) 学習指導
 - ア 発達段階に応じた指導法の開発を行う。
 - イ 全ての教科を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を大切にする授業を目指し授業づくりを行っていく。
 - ウ 学力テストの結果を受け、小中共通の課題を見出し、中学校の課題に向けて小学校段階でどのような対策が可能かを探ったりするなど、小中相互の学力分析を比較し改善策を検討する。
 - エ 中学校でのテスト実施状況、課題点などを調査分析し、小学校段階での対策を練る。
 - オ 定期テストの不安軽減への取組などを小学校段階で実施し、中1ギャップの解消につなげる。
 - (2) 生徒指導
 - ア 9年間の継続的な生徒指導を進めるために、生徒指導部長、主任、学年主任を中心にした生徒指導を進める。課題を小中で共有化し、規範意識の確立と自尊感情を醸成する。
- 2 中学校ブロックにおける特色ある教育活動の展開
 - (1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえて、小学校では1, 2年生（年間18時間）3, 4年生（年間35時間）で外国語活動、5, 6年生（年間70時間）の外国語科を実施する。中学校では、授業を英語で行う、英語による言語活動を充実させるなど、引き続き授業改善を行う。
 - (2) 共に学び、共に活動できる児童生徒の育成を目指して、異年齢集団活動を実施する。児童会、生徒会それぞれに独立した組織づくりではなく、学園会を組織して、小学生、中学生という枠組を超えた学園の一員であるという意識を育む。
- 3 家庭・地域社会との連携
 - (1) 育友会行事への教職員・部活動生徒の積極的な参加
 - (2) 地域懇談会への教職員の参加
 - (3) 親のための進路セミナーの開催
- 4 中学校ブロック推進体制の工夫や充実
 - (1) 小中で一つの組織と考え、打ち合わせ・職員会議・研修会を小中合同で行う。その中で適切な小中一貫教育推進のために、教職員の情報交換と意思統一を確実にし、随時、計画や取組についての点検を行う。
 - (2) 企画委員会、中後期主任会等の会議を通して、ステージ毎の学習内容・生徒指導についての意見交換、指導方針の確認などを行う。

今年度の成果と課題

- ・ 全ての教科を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を大切にする授業を目指した授業づくりに向けて、大学教員を講師に招聘するなど学園全体で研究を進めることができた。
- ・ 1～9年生が共に過ごす中で、自然と下級生は上級生を見て学び、上級生はその自覚を持つことで、自立的な態度を身に付けている。
- ・ 学力向上にむけてさらに取組内容を具体化、系統化し、学校全体で進める必要がある。

来年度に向けて

- ・ 教育活動の基礎となる「国語力」とりわけ「読解力」の育成に向けた取組の充実を図る。
- ・ 「子ども達が自ら学ぶ姿勢を育てる」ことを目指した授業改善、家庭学習の取組をさらに強化する。

平成 30 年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動報告

1 協議会の活動

小中一貫教育に関する取組全般の進行管理を行い、取組内容の点検確認とともに改善について意見の交換等を行う。

2 30 年度の活動計画

(1) 協議会（年 2 回開催予定）

①第 1 回協議会 7 月 23 日（月）

②第 2 回協議会 2～3 月開催予定 [年度末進行管理]

※本協議会は必要に応じて会長が招集する。（本協議会設置要項第 6 条）

(2) 取組視察（2 学期予定）

中学校ブロックの取組を視察し、その後現地にて交流・協議を行う。

- ・視察受け入れ可能な取組を委員が選択し参加する。
- ・学校と小中一貫教育推進協議会委員の交流・協議の場をもつ。

（管理職や小中一貫教育コーディネーター等が対応）

(3) プロジェクトチームの設置

3 30 年度の活動報告

(1) 協議会

①第 1 回協議会 7 月 23 日（月）

②第 2 回協議会 3 月 1 日（金）

(2) 取組視察

日 付	視察校（中学校ブロック）	取組内容	視察委員
10 月 17 日（水）	西大久保小学校（南宇治中学校ブロック）	帰国外国人児童生徒理解学習	伊藤副会長 内田委員 瀬野委員
10 月 24 日（水）	伊勢田小学校（西宇治中学校ブロック）	合同研修会	薮 会長 井戸本委員 葛山委員
11 月 7 日（水）	槇島中学校（槇島中学校ブロック）	6 年生体験入学	井戸本委員
11 月 15 日（木）	宇治黄檗学園（黄檗中学校ブロック）	学園会選挙	中村委員
11 月 22 日（木）	西小倉小学校（西小倉中学校ブロック）	合同研修会	中本委員 原田委員

※ 5. 中学校ブロックの取組視察を実施

※ 委員視察時に視察ブロック関係者と意見交流や協議を実施

平成30年度 宇治市小中一貫教育に係る視察受入状況

日 付	団 体 名	人数	視 察 先
4月26日（火）	甲賀市教育委員会	滋賀県	12名 広野中学校
6月18日（月）	久留米市教育委員会	福岡県	1名 宇治黄檗学園
8月2日（木）	上山市議会	山形県	10名 市役所議会棟
10月22日（月）	総合教育支援センター	山口県	1名 宇治黄檗学園
1月24日（木）	寝屋川市教育委員会	大阪府	28名 宇治黄檗学園
1月25日（金）	泉南地区教育長連絡協議会	大阪府	7名 宇治黄檗学園
2月14日（木）	桑名市教育委員会	三重県	15名 宇治黄檗学園

（平成31年2月末現在）

*計7団体74名

